



## 博士課程

### 共同サステナビリティ研究専攻

西東京の国立三大学は2019年4月に共同サステナビリティ研究専攻(博士後期課程)を共同で設置しました。当初、サステナビリティ(持続可能性)とは主に環境問題との関連で取り上げられていましたが、今日のサステナビリティ研究の使命と意義は、広く人類が直面するグローバルな課題—たとえば貧困、紛争、資源・エネルギー、環境、情報に関わる問題—の解決に取り組むことであると考えられます。

共同サステナビリティ研究専攻では、西東京三大学が持つ、人文社会科学・理工学・農学分野の研究の強みと、半径5km以内に立地する地の利を活かして、異分野の研究成果を統合することによってサステナブルな社会やイノベティブな科学技術を構築できる、文理協働型グローバル博士人材を養成します。

なお、本専攻では他大学出身者、社会人および外国人留学生等も広く受け入れています。



#### [入学定員]

東京外国語大学(総合国際学研究所) 3名  
東京農工大学(工学府) 4名  
電気通信大学(情報理工学研究所) 4名

#### [学位]

Doctor of Philosophy 博士(学術)

#### 特色

- これまでの三大学による様々な連携事業の実績を基に人材養成を展開
- 文理各分野における卓越・ユニークな単科大学の協働により、国内外で活躍する強い人材を養成
- 西東京エリアの近接地における実質的・効果的な教育の展開
- 複合新領域の研究の推進

#### 人材像

自身の専門性に軸足を置き、その専門的な観点から人類の未来の持続的発展のために、グローバル化社会の抱える地球規模の課題を分野横断的な問題として捉え、他分野の研究成果を取り入れることによってイノベーションを生み出すことができる学際的、越境的な実務人材

#### 具体的な能力・学識

- 普遍的かつ実践的学識を基盤とする国際感覚と倫理観(国際的センス)
- 国際社会の現場で広範に適用できる実践的な基礎倫理と技法(スキル)
- 政治・経済・食料・生命・エネルギー・資源・環境、ICT・人工知能、医療・福祉・健康等の領域における高度で専門的な知見と研究力
- 異文化・異分野の背景や価値観を理解し、多様な見解を調整できる適用力と調整できる合意形成力
- 国際通用性のある論理的思考力と機能伝達能力(コミュニケーション力)

